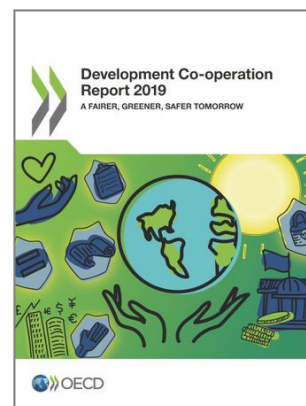


OECD *Multilingual Summaries* Development Co-operation Report 2019 A Fairer, Greener, Safer Tomorrow

Summary in Japanese



全文を読む: [10.1787/9a58c83f-en](https://doi.org/10.1787/9a58c83f-en)

開発協力報告書 2019 より公正で、環境負荷が少なく、安全な明日のために

日本語要約

© OECD

本要約は OECD の公式翻訳ではありません。

本書の利用については、電子版又は印刷版のいずれの場合でも <http://www.oecd.org/termsandconditions> に記載された諸条件が適用される。

多言語版要約は、英語とフランス語で発表された OECD 出版物の抄録を 翻訳したものです。



Disclaimers: <http://oe.cd/disclaimer>

エグゼクティブ・サマリー

今こそ、開発協力の捉え方の刷新を

持続可能な開発のための 2030 アジェンダ と気候変動に関するパリ協定の根底には、制度上の大規模な課題に対応し、世界が直面している政治的、経済的、社会的、環境的危機に立ち向かうには、協力が必要だという考え方がある。しかし実際には、目標達成は困難を極めている。進捗の足並みはそろわず、次々に新たな課題が発生し、せっかく達成した望ましい成果に新しい課題が影を落とすこともしばしばである。

多くの国際機関や国際規範に対して懐疑的な見方が深まっている現在、開発の行為主体は、自らが行っている活動を一段と強力に推進する必要がある。今、若者は団結して行動を起こし、新しい開発協力の考え方を求めている。若者や一般市民の幅広い関与を促し、開発協力の短所を一般市民に強く認識させるようなメディア主導の語り口に対抗するために、開発協力の捉え方を刷新し、広く一般社会に向けて、開発援助とは何か、どのように運営されているのか、なぜ必要なのかを説明する必要がある。

希望を生み出す：より良い暮らしと共通の未来への貢献

開発の進展を担うのは、主に国や社会である。国際的開発協力の力だけで実現できるものではない。しかし開発を推進する支援的役割を果たしていることは確かである。開発協力の神髄は、開発途上国が自ら行う、国民生活を向上させ、誰一人取り残さないための努力を支持することである。開発協力によって価値が向上し、さらなる投資が得られ、何も行動を起こさなかった場合と比較するとコストが大幅に低下し、将来の問題を防ぐことによってすべての人が利益を享受できることを示す明確な実例は、無数に存在する。

開発協力はこれまで以上に求められている

しかし国際的な開発協力やグローバル社会が、将来にわたって実効性のある協力活動を行い、それぞれの約束を果たす意思と能力を維持できるかどうかについては警戒が必要だということは明白である。人々の幸福と持続可能な生活の実現に向けて明確に定義され、合意された目標を達成するための国際的な開発協力活動が、本来の軌道から外れてしまった場合、それは警鐘と受け止められるべきであり、行為主体は自らの行為と発言が矛盾していないかどうかを厳しく問いたださなければならない。

大国間の地政学上、貿易上の緊張が、成長の可能性を阻害しているようだ。2015年に国際社会が掲げたグローバルな多国間主義と意欲的な目標が脅威にさらされている。世界経済や社会の日常的なやり取りが急速にデジタル化した結果、世界中で労働の未来に変革が起きている。気候災害の増加によって食料不足や健康リスクが深刻化し、異常気象に対する人々の脆弱性が増す中で、苦労の末に達成した成果が台無しになるなど、成長と開発の見通しに混乱が起きている。最新の実証によると、持続可能な開発目標（SDGs）達成のための活動は、ジェンダー平等とその他あらゆる形の不平等、貧困、脆弱性、紛争、気候変動という、より良い社会の実現に向けて解決が必須である問題について、進捗が遅れている。



開発協力の路線変更が求められている

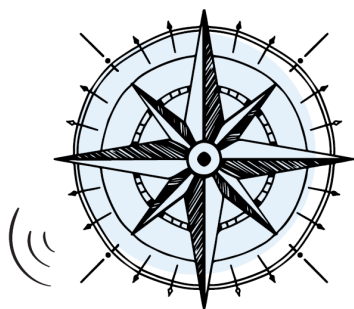
OECD開発援助委員会（DAC）加盟国政府及び各国の開発機関は、21世紀型の課題に立ち向かい、様々な行為主体と積極的に協力して長期的な開発成果を実現することを目指し、開発協力がそうした目的に適していることを、発言、行動、投資を通じて示さなければならない。

本報告書は、3つの分野で方向性と行動の変革を求めている。

1

開発協力の捉え方を時代に合わせて刷新する：

- 人々が関心を寄せる重大な課題について、地域に根差した具体的な行動や解決策に焦点を当てることで、人々の団結と関心を活用する。
- 各国が持続可能な開発に向けて、すべての人々と世代に等しく与えられた権利を尊重しながら、自国の道筋を描く権利と責任を尊重する。
- 新しい言葉を使って視点を変えることによってすべての人々に力を与え、他国の人々の福祉が増進することによって、我々すべてが得られるものを示す。



2

制度を一新、目指す目的に合わせて：

- 誰一人取り残さない開発のために、無償の公的資金の本質と価値を守り、推進する。
- あらゆる社会の基盤を成す男女平等に向けて、行動を強化する。それが当然の権利であるだけでなく、未来に前進する扉を開く鍵だからである。
- 環境に配慮したクリーンな開発協力への投資を通じ、気候変動と開発の壁をなくし、気候への耐性を備えた人間中心の開発の道筋を切り開く。
- 持続可能な開発と福祉に役立つ活動について、高い水準と高度な知識、優良な事例を支持し、更新し、推進する。

3

団結し、賢明な方法で取り組む：

- 特に持続可能な開発と矛盾する短期的な政治経済の利害や圧力に直面する場面で、実効性のある開発協力の精神を再活性化させる。
- 官民組織、市民社会の行為主体と賢明な方法で力を合わせ、それぞれの独自の価値観を取り入れ、正しいインセンティブと保護を備えることによって、知識を増進し、イノベーションを推進し、財務基盤を強化し、能力を高める。
- 世界の公共財を最大化するとともに、他国の持続可能な開発に及ぼす負の影響を最小化するために、様々な政策関係者と連携し、公共政策や市民生活に関わるすべての分野で一貫性のある活動をする。